

令和 2 年度

千葉県

袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

寺野台遺跡第 10 次調査

令和 3 年 3 月

袖 ヶ 浦 市 教 育 委 員 会

令和2年度

千葉県

袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

てらのだい
寺野台遺跡第10次調査

令和3年3月

袖ヶ浦市教育委員会

序 文

房総半島の西側中央部に位置する袖ケ浦市は、内陸部に小櫃川によってもたらされた豊かな自然環境を活かした農業地域を形成する一方で、海岸部は京葉工業地帯の一翼を担う工業地域として大きく変貌を遂げてきました。

本市では、袖ケ浦市総合計画に基づき『みんなでつくる 人つどい 緑かがやく 安心のまち 袖ケ浦』の実現に向け、各分野において多面的な施策展開を図っています。豊かな自然環境と都市機能・住みやすい生活環境とが調和したまちづくりのため、近年では袖ケ浦駅海側特定土地区画整理事業などによって宅地開発も進み、首都圏近郊からの移住者の増加など、さらなる発展が見込まれております。

このような発展を続けてきたこの地には、古代から多くの人々が生活し、特色のある歴史と文化を形成した痕跡が遺跡という形で地中に数多く存在しております。開発行為が地中の遺跡にあたえる影響は大きく、遺跡は破壊されると二度と元に戻せないという性格を持ちます。両者の調和を図り、埋蔵文化財をより良い状態で保存し、後世に伝えていく責務が私たちにはあります。

そこで本市では、昭和 63 年度より国及び県の補助を受けて、各種の開発事業に先立ち、遺跡の状況を確認することで開発と埋蔵文化財保護の調整を図っております。また、発掘調査で得られた成果を発掘調査報告書として記録・刊行し、広く公開することに努めています。

これらをまとめた本書を多くの市民の皆様手にしていただき、埋蔵文化財への関心を深めていただくとともに、郷土の歴史への思いを深めていただければと思います。

最後になりましたが、発掘調査の実施から発掘調査報告書の刊行に至るまで御指導いただきました千葉県教育庁教育振興部文化財課をはじめ、土地所有者様及び関係者の皆様には、御理解と御協力をいただきましたことに対しまして心から感謝申し上げます。

令和 3 年 3 月

袖ケ浦市教育委員会
教育長 御園 朋夫

例 言

1. 本書は、令和2年度に発掘調査を実施した寺野台遺跡第10次調査を収録した令和2年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査は、国庫・県費補助事業として千葉県教育委員会の指導を受け、発掘及び整理作業、報告書刊行までの業務を袖ヶ浦市教育委員会が実施した。
3. 発掘作業は令和2年11月9日～同年12月2日、整理作業を令和2年11月19日～令和3年3月12日まで実施した。
4. 調査遺跡は、袖ヶ浦市川原井字寺地629番地2の4の一部他に所在する。
5. 発掘作業及び整理作業は鎌田 望里・助川 諒が行った。
6. 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第1図 国土地理院発行 1/25,000 地形図 「姉崎」「上総横田」

第2図 袖ヶ浦市発行 1/2,500 地形図 「No.29」
7. 本書で使用したトレンチ名や遺構名は、基本的に発掘時のものを使用した。
8. 今回の調査に伴う遺物・記録類等は、袖ヶ浦市教育委員会で保管する予定である。
9. 遺跡のコードは、寺野台遺跡（SG 098）である。本遺跡の調査は、数次にわたり実施されているため、括弧付けの数字で調査次数を示した。（第10次調査 → （10））
10. 発掘作業から報告書刊行に至るまで、千葉県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々から御指導・御協力を頂いた。また、現地での作業においては調査区の土地所有者各位の御協力をいただいた。記して謝意を表したい。

目 次

序文	
例言	
序章 調査概要	1
1. 調査に至る経緯	
2. 調査経過	
3. 調査組織	
第2章 寺野台遺跡(10)	3
1. 周辺の遺跡と環境	
2. 調査と遺跡の概要	
3. まとめ	

挿 図 目 次

第1図	調査遺跡及び周辺遺跡位置図
第2図	寺野台遺跡調査区位置図
第3図	寺野台遺跡(10) 遺構確認状況図、土層断面図
第4図	寺野台遺跡(10) 出土遺物実測図①
第5図	寺野台遺跡(10) 出土遺物実測図②

表 目 次

第1表	寺野台遺跡(10) 出土遺物内訳表
第2表	寺野台遺跡(10) 出土遺物観察表

図 版 目 次

図版1	寺野台遺跡(10) ①
図版2	寺野台遺跡(10) ②

序章 調査概要

1. 調査に至る経緯

袖ヶ浦市教育委員会では、市内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地内において計画される中小企業等の開発行為に際して、遺跡の実態を把握するために国及び県の補助を受けて確認調査を実施している。

令和2年度は寺野台遺跡における墓地造成に伴い、確認調査を実施した。

2. 調査経過

寺野台遺跡（10）

11月9日：環境整備、写真撮影、10日：環境整備、仮設トイレ設置、11日：基準点測量、重機によるトレンチ掘削、写真撮影、12日：重機によるトレンチ掘削、精査、13日：精査、断面図作成、写真撮影、16日：精査、写真撮影、17日：現場休止、18日：精査、写真撮影、19日：平面図・断面図作成、写真撮影、20日：断面図作成、精査、写真撮影、24日：平面図作成、写真撮影、25日：重機による埋戻し、26日：現場休止、27日：重機による埋戻し、環境整備、12月2日：仮設トイレ撤去、環境整備、写真撮影

3. 調査組織

調査主体 袖ヶ浦市教育委員会

教 育 長	御園 朋夫	教 育 部 長	根本 博之
教育部次長	小阪 潤一郎	生涯学習課長	生方 和義
生涯学習課文化振興班			
副課長兼文化振興班長	稲葉 理恵	主 査	柳井 健
副主査	光江 章	副主査	大河原 務
学芸員	鎌田 望里（担当者）	学芸員	助川 諒



第1図 調査遺跡及び周辺遺跡位置図

第2章 寺野台遺跡（10）

1. 周辺の遺跡と環境（第1・2図）

袖ヶ浦市は千葉県の東京湾沿岸部の中央に位置し、市内北部は下総台地から連なる袖ヶ浦台地が広がり、南部は東西に流れる小櫃川により開析された沖積低地と上総丘陵の北端である丘陵地帯で構成される。寺野台遺跡は袖ヶ浦台地に位置し、小櫃川の支流である松川に北面する標高約60mの台地の縁辺部に展開する。

本遺跡では、これまでに9次にわたる調査を実施している。検出された遺構・遺物の時期は奈良・平安時代が主となる。過去の調査では、竪穴住居をはじめ、竪穴状遺構や土坑・溝状遺構が検出されており、集落跡としての様相が窺える。第5次調査では、多量の土師器の甕や坏が出土した土器焼成遺構が検出されており、第9次調査においてもクロロピットをもつ住居兼工房跡と推定される遺構や羽口や鉄滓が出土した住居などの生産遺構が確認されている。

本遺跡の周辺には東郷台遺跡、萩ノ原遺跡、永吉台遺跡、樋爪遺跡などの奈良・平安時代の遺跡が多く分布する。東郷台遺跡では四面廂建物址や瓦塔が、萩ノ原遺跡では基壇や礎石を有する建物跡が検出されている。永吉台遺跡群遠寺原地区では寺院址が検出されており、寺院関係の遺構が点在する。また、永吉台遺跡群西寺原地区では、住居兼工房跡や土器焼成遺構が多数検出され、樋爪遺跡においても土器焼成遺構や粘土採掘坑など土器生産関係の遺構が検出されている。

2. 調査と遺跡の概要（第3～5図、第1・2表、図版1・2）

調査方法 墓地造成に伴い、1,610㎡を対象として確認調査を実施した。調査区に2m×5mを基本としたトレンチを設定し、状況により拡張した。重機による表土掘削ののち、人力による遺構確認作業を行った。

調査の概要 本調査区は寺野台遺跡西部に位置し、北側に向かって緩やかに傾斜する。近年、調査区西側は植樹地として、東側は畑として利用されており、木根や耕作痕による影響を受けていた。調査区中央部は通路として利用されていたためか、遺構の遺存度は比較的良好であった。土層の堆積状況は、Ⅰ-1・Ⅰ-2（表土・耕作土）、Ⅱa層（褐色土 黒色粒子を含む）、Ⅱb層（暗褐色土）、Ⅱc層（明褐色土 ソフトローム漸移層）、Ⅲ層（ソフトローム層）となる。奈良・平安時代の遺構はⅡb層を掘り込む。調査区中央部における遺構確認面は表土から0.3～0.4mで、東・西側は表土層が厚く、0.5～0.7mで検出される。

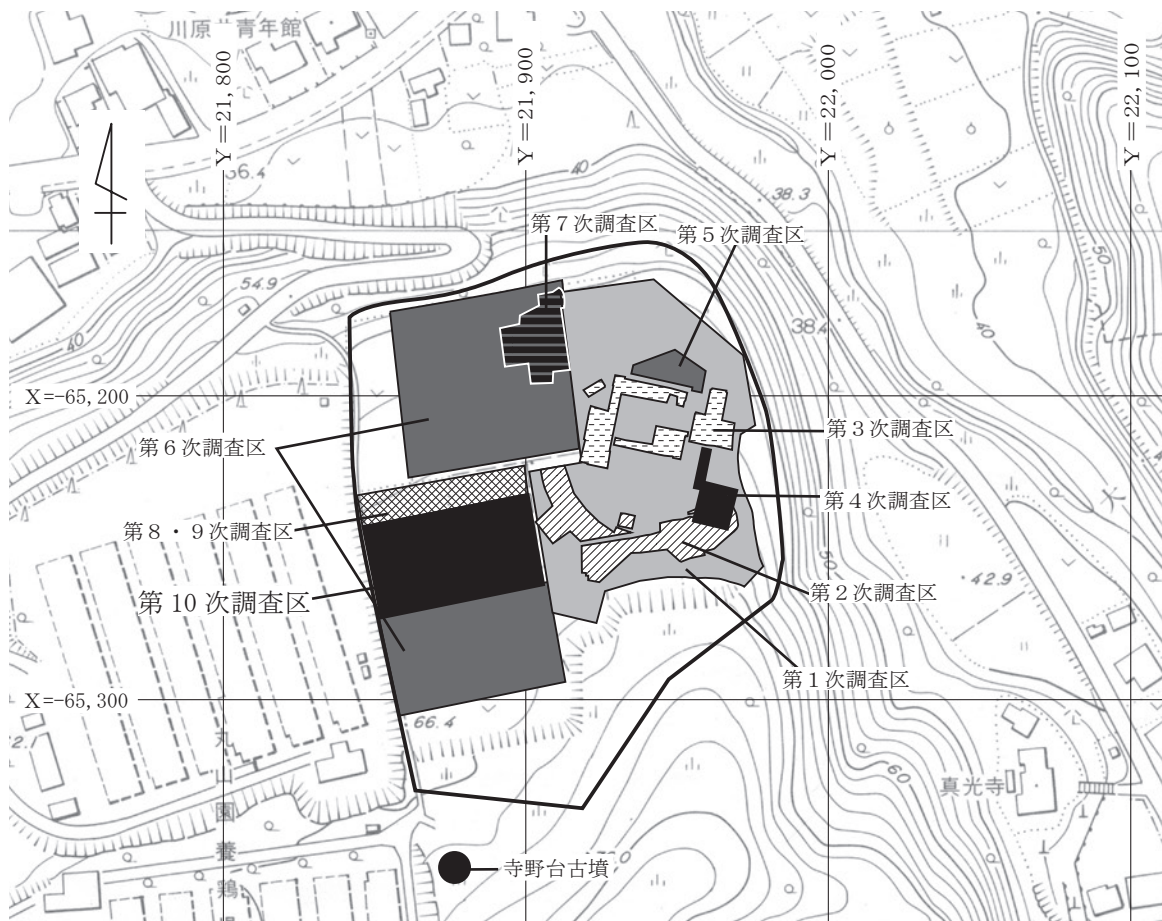
遺構 遺構は、奈良・平安時代の竪穴住居9軒、土坑24基、溝状遺構2条が検出された。1Tは表土から0.5m程で遺構確認面に至る。土坑3基と溝状遺構1条が検出された。南壁にかかって検出された土坑は覆土に炭化物・焼土を含む。溝状遺構は南北に走り、第9次調査で検出された溝状遺構の延伸と考えられる。2Tでは、東側において表土直下から竪穴住居の覆土が検出され、部分的に床面と推測される硬化面が確認できた。また、正円形のプランを呈する土坑1基と南北方向に走る溝状遺構1基が検出された。3Tは0.4～0.5m程で遺構確認面に至る。土坑2基が検出された。北東隅から検出された土坑は覆土に白色粘土を含む。4Tは竪穴住居2軒、土坑1基が検出された。遺構確認面は表土から0.5～0.6mである。遺構はいずれも耕作による削平、トレンチャーによる攪乱を受けていた。5Tはトレンチャーや西側で土坑1基、東側で3軒の竪穴住居が重複して検出された。北壁にかかる竪穴住居は覆土に白色粘土粒を斑状に含む。6Tでは土坑1基、7Tでは土坑4基が検出された。6・7Tはいずれも遺構確認面まで0.6mを測り、所々に耕作による影響を受けていた。8Tでは、表土直下から2軒の竪穴住居が検出された。遺構の状況確認のため、南壁に沿ってサブトレンチを入れたところ、竪穴住居の柱穴と貯蔵穴と推定される掘り込みが確認できた。9Tでは遺構は確認されなかった。10Tでは竪穴住居1軒、土坑1基が検出された。竪穴住居の中央部には炭化物と灰が確認できた。11Tではソフトローム上面で土坑3基が検出された。北東隅の土坑は正円形を呈し、

覆土に焼土や炭化物を含む。第9次調査においても類似した遺構が検出されている。12 Tは0.6～0.7 m程で遺構確認面に至り、2基の土坑が検出された。トレンチの大部分が攪乱の影響を受けていた。13 Tでは堅穴住居1軒・土坑1基が検出された。北壁にかかる土坑は覆土に焼土や炭化物を含む。14 Tでは小規模の土坑が4基検出された。いずれも深さは0.1～0.2 m程とみられる。

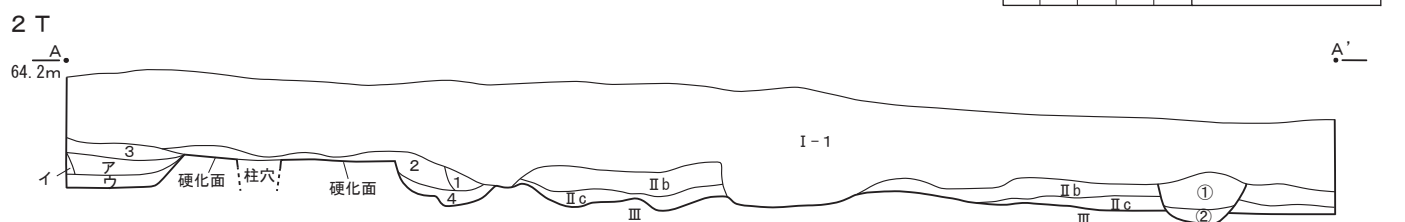
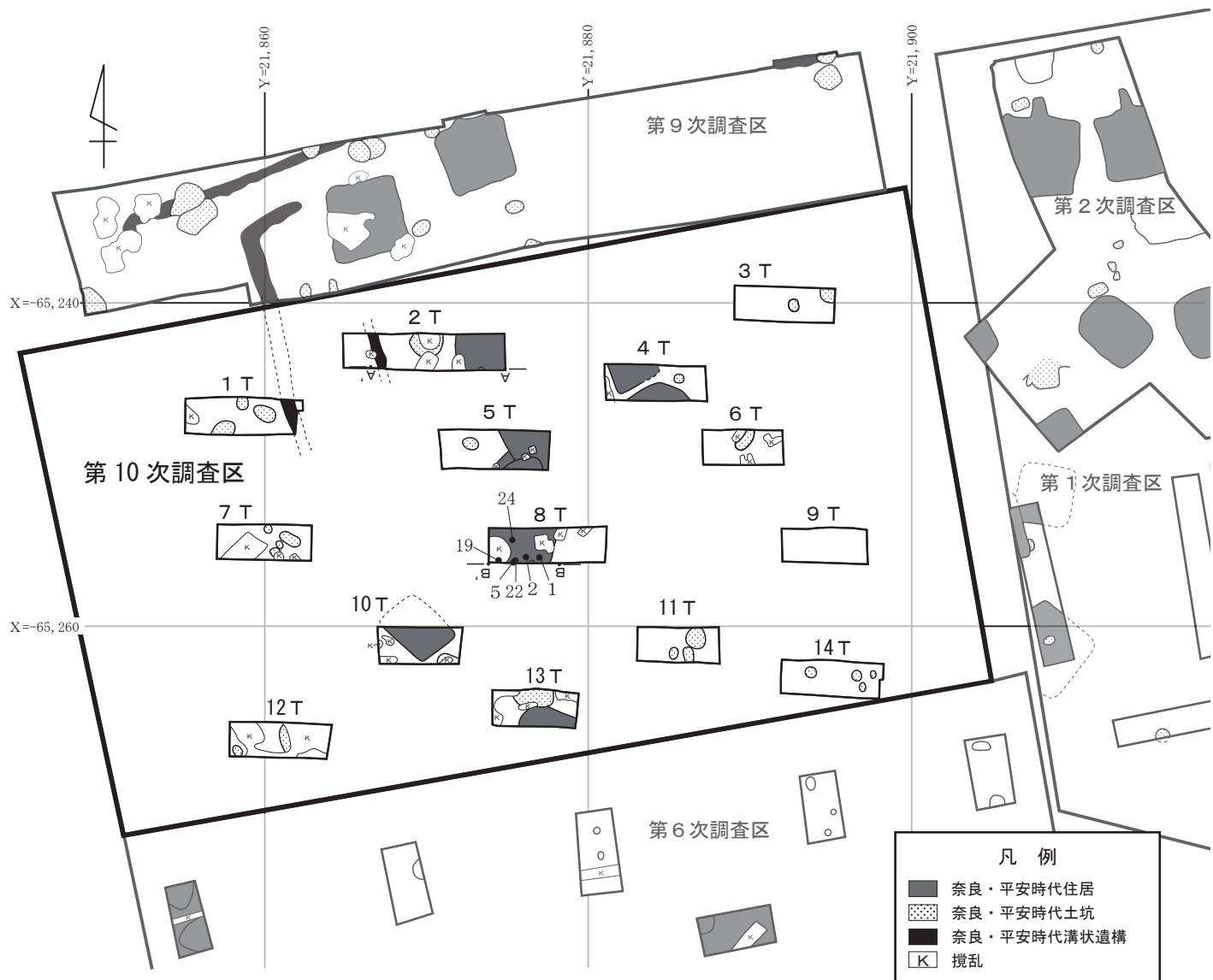
遺物 調査区からは土師器6,841.15 g、須恵器643.53 g、灰釉陶器3点、瓦6点、支脚片1点、鉄製品1点、石製品2点、炭化種子1点、動物骨（臼歯か?）48.36 gが出土した。土師器の器種は坏・甕・甔が出土し、中でも坏が最も多く、有台坏や内面に黒色処理を施した坏が比較的多い。須恵器は茶褐色で縦方向のタタキ目の調整をもつ北総系須恵器の甕の破片が多く出土した。文字資料としては、土師器の坏で墨書土器1点、ヘラ書き1点が出土した。瓦はいずれも平瓦である。出土遺物の時期は大半が9世紀後半から10世紀前半と推定される。8 Tの攪乱中から出土した碧玉製の管玉は、古墳時代のものと思われる。遺物の出土量は遺構の残りが良い中央部が多い。8 Tの堅穴住居からは瓦や須恵器の甕片、置きカマドの底部と推定される破片が出土した。調査区全域にわたり土師器片が分布し、特にI-1・2からは細片が多いことから耕作の影響を受けていると思われる。

3. まとめ

本調査区においても過去の調査区と同様に9世紀後半から10世紀前半の遺物を伴う遺構が広範囲で認められ、特に調査区中央部では堅穴住居が集中して検出された。調査区北西側では、第9次調査で検出された溝状遺構の延伸を確認でき、遺構の性格が明らかとなった。また、本遺跡では初となる古墳時代のものと推定される碧玉製の管玉が出土した。現在は土で被覆されているため確認できないが、本遺跡の南側に位置する寺野台古墳（近世の塚の可能性あり）に関連する遺物の可能性が推測される。



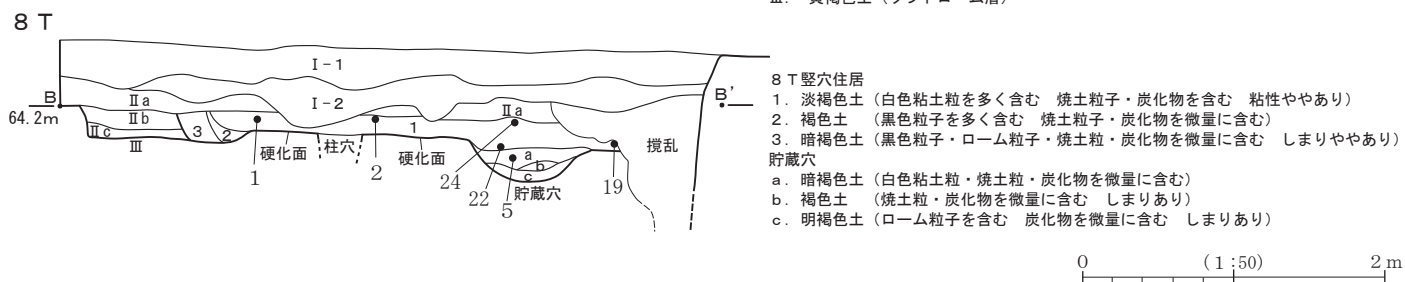
第2図 寺野台遺跡調査区位置図 (1:2,500)



- 2 T 竪穴住居
1. 黒褐色土 (黒色粒・粒子を多く含む ローム粒子を微量含む しまり普通)
 2. 暗褐色土 (黒色粒子を多く含む 焼土粒子・炭化物を僅かに含む しまりややあり)
 3. 黒褐色土 (黒色粒子を多く含む 焼土粒・炭化物・灰を含む)
 4. 褐色土 (黒色粒子を微量、ローム粒子を斑状に含む)
 - ア. 暗赤褐色土 (焼土粒・炭化物・灰を多く含む しまりなし)
 - イ. 灰白色土 (白色粘土・砂を含む しまりややあり 粘性あり)
 - ウ. 明褐色土 (ローム粒子を多く含む しまりややあり)

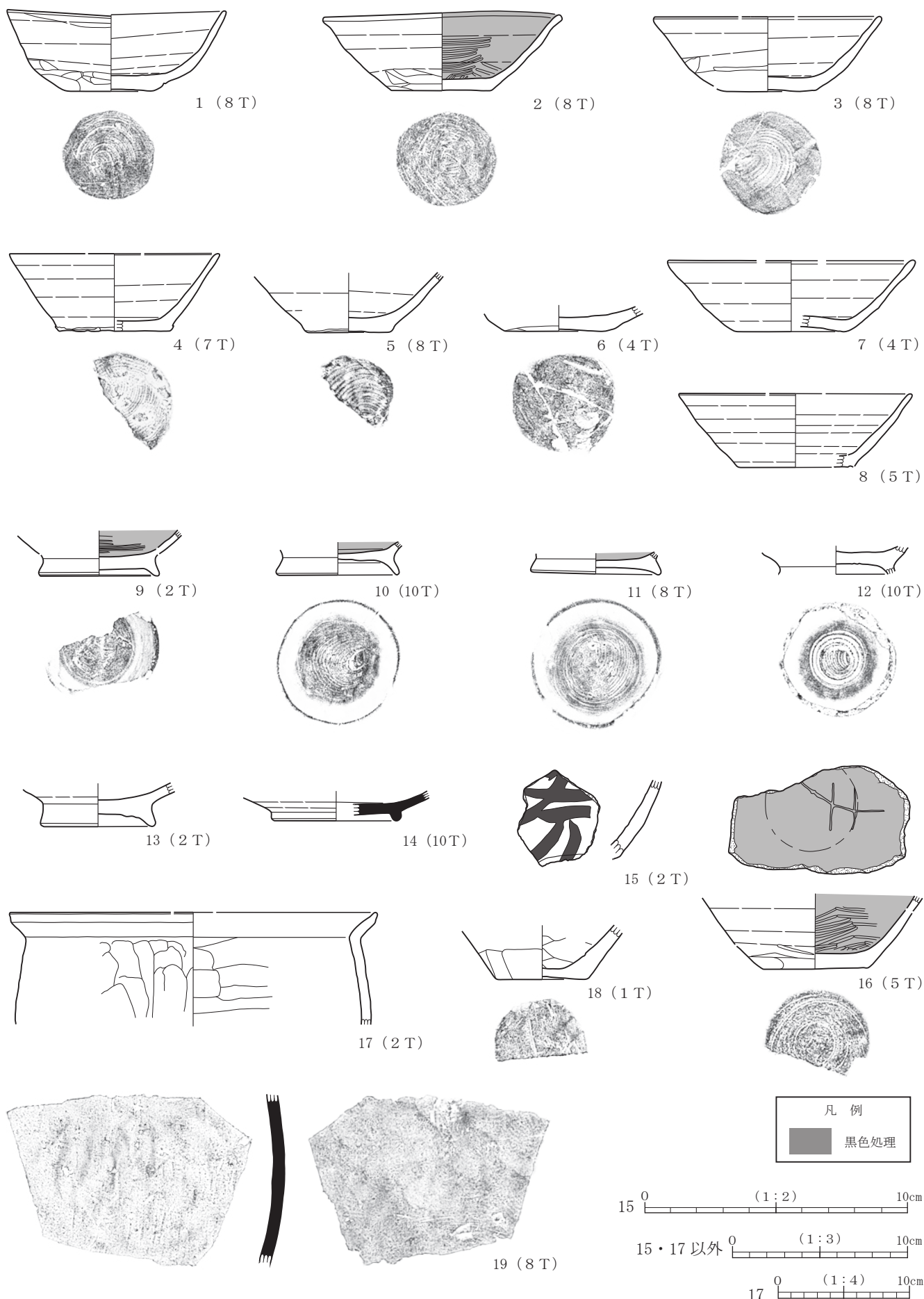
- 溝状遺構
- ①. 黒褐色土 (黒色粒子を多く含む きめ細かい しまりややあり)
 - ②. 暗褐色土 (ローム粒子を含む 黒色粒子を微量含む)

- 基本層序
- I-1. 表土
 - I-2. 耕作土 (黒色粒子を多く含む)
 - IIa. 褐色土 (黒色粒子を含む しまりややあり)
 - IIb. 暗褐色土 (黒色粒子を多く含む ローム粒子を斑状に含む しまりややあり)
 - IIc. 明褐色土 (ローム粒子を多く含む 黒色粒子を微量含む しまりあり)
 - III. 黄褐色土 (ソフトローム層)

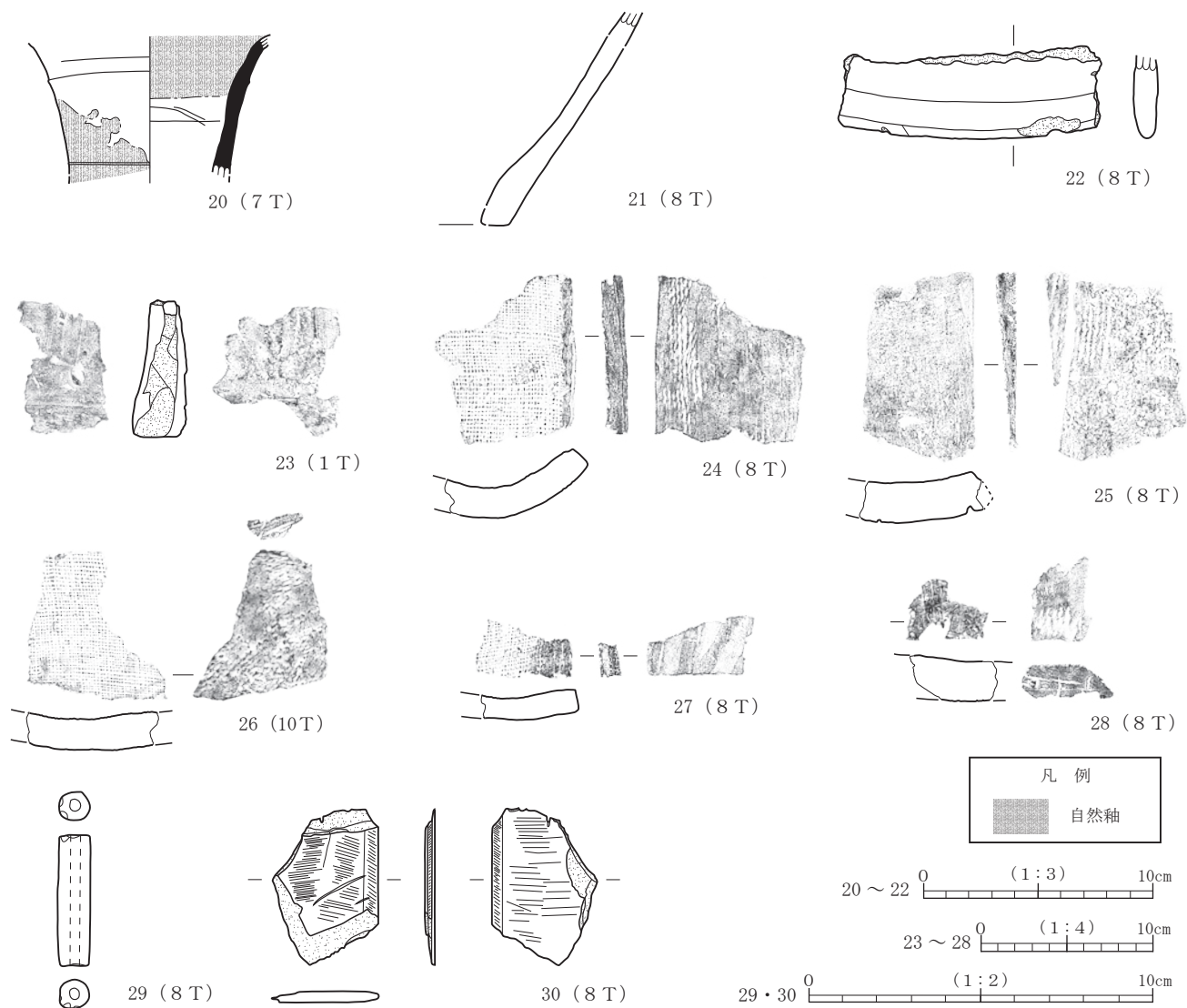


- 8 T 竪穴住居
1. 淡褐色土 (白色粘土粒を多く含む 焼土粒子・炭化物を含む 粘性ややあり)
 2. 褐色土 (黒色粒子を多く含む 焼土粒子・炭化物を微量に含む)
 3. 暗褐色土 (黒色粒子・ローム粒子・焼土粒・炭化物を微量に含む しまりややあり)
- 貯蔵穴
- a. 暗褐色土 (白色粘土粒・焼土粒・炭化物を微量に含む)
 - b. 褐色土 (焼土粒・炭化物を微量に含む しまりあり)
 - c. 明褐色土 (ローム粒子を含む 炭化物を微量に含む しまりあり)

第3図 寺野台遺跡 (10) 遺構確認状況図、土層断面図



第4図 寺野台遺跡 (10) 出土遺物実測図①



第5図 寺野台遺跡(10)出土遺物実測図②

第1表 寺野台遺跡(10)出土遺物内訳表

トレンチ 番号	土師器			須恵器	灰釉陶器		瓦		その他			
	総量(g)	黒色処理			重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	種別	点数	重量(g)
		重量(g)	比率※									
1T	274.11	2.89	1.1%	12.64		0	1	133.83	—		0	
2T	1255.67	70.79	5.6%	47.49	1	7.74		0	支脚	1	19.77	
3T	28.82	5.73	19.9%	6.16		0		0	—		0	
4T	319.24	9.42	3.0%	15.09		0		0	鉄製品	1	16.44	
5T	450.09	4.71	1.0%	91.69		0		0	炭化種子	1	1.25	
									動物骨	5	48.36	
6T	65.21	16.24	24.9%	0.95		0		0	—		0	
7T	224.72	1.62	0.7%	33.84		0		0	—		0	
8T	3098.86	400.92	12.9%	378.58	1	10.52	4	588.48	石製品	2	11.51	
9T	23.96	0	0.0%	0		0		0	—		0	
10T	424.99	86.67	20.4%	27.88	1	28.40	1	132.94	—		0	
11T	85.6	2.07	2.4%	0		0		0	—		0	
12T	332.58	6.05	1.8%	0		0		0	—		0	
13T	182.55	0	0.0%	29.21		0		0	—		0	
14T	74.75	0	0.0%	0		0		0	—		0	
合計	6841.15	607.11	8.9%	643.53	3	46.66	6	855.25	—	—	—	

※ 土師器の内に黒色処理を施すものが占める比率を示す。

第2表 寺野台遺跡（10）出土遺物観察表

計測値内の（）は、口径・底径は復元値、器高は残存値

遺物番号	トレンチ 番号	種別	器種	部位 遺存率	寸法（cm）			重量（g）	色調	調整技法等	備考	
					口径	器高	底径					
1	8T	土師器	坏	完形	12.45	5.10	4.60	170.96	明黄褐	ロクロ成形 外面：体部下端手持ちヘラケズリ 底部：回転糸切後、手持ちヘラケズリ		
2	8T	土師器	坏	ほぼ完形	13.70	5.30	4.50	167.85	外面：明黄褐 内面：黒	ロクロ成形 外面：体部下端手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ後に黒色処理 底部：回転ヘラケズリ	内黒土器	
3	8T	土師器	坏	口縁部20% 底部完形	（12.80）	4.30	5.80	69.66	明黄褐	ロクロ成形 外面：体部下端手持ちヘラケズリ 底部：回転糸切後、手持ちヘラケズリ		
4	7T	土師器	坏	口縁部10%以下 底部50%	（12.00）	4.45	6.30	51.72	明黄褐	ロクロ成形 外面：体部下端手持ちヘラケズリ 底部：回転糸切後、未調整		
5	8T	土師器	坏	底部50%	—	（3.40）	5.00	49.20	黒褐	ロクロ成形 外面：体部下端手持ちヘラケズリ 底部：回転糸切後、手持ちヘラケズリ		
6	4T	土師器	坏	底部完形	—	（1.40）	5.75	61.31	明黄褐	ロクロ成形 外面：体部下端手持ちヘラケズリ 底部：回転ヘラケズリ後、手持ちヘラケズリ		
7	4T	土師器	坏	口縁部10%以下 底部50%	（10.00）	（4.05）	（6.20）	54.02	黒褐	ロクロ成形 外面：体部下端回転ヘラケズリ 底部：回転糸切後、未調整	焼成脆弱	
8	5T	土師器	坏	口縁部15% 底部周縁20%	（13.30）	4.20	（6.70）	33.06	黄褐	ロクロ成形 外面：体部下端回転ヘラケズリ 底部：回転ヘラケズリ後、未調整		
9	2T	土師器	有台坏	底部20%	—	（2.65）	6.80	39.53	明黄褐	ロクロ成形 内面：ヘラミガキ後、黒色処理 底部：回転ヘラケズリ後、周縁ナデ	内黒土器	
10	10T	土師器	有台坏	底部(高台部) 完形	—	（1.90）	6.75	46.16	外面：明黄褐 内面：黒	ロクロ成形 内面：ヘラミガキ後、黒色処理 底部：回転糸切後、周縁ナデ	内黒土器	
11	8T	土師器	有台坏	底部 (高台部)80%	—	（1.30）	7.40	51.68	外面：黄褐 内面：黒	ロクロ成形 内面：ヘラミガキ後、黒色処理 底部：回転糸切後、回転ヘラケズリ	内黒土器	
12	10T	土師器	有台坏	底部100%(高台 周縁部のみ欠損)	—	（1.60）		67.46	黄褐	ロクロ成形 底部：回転糸切後、回転ヘラケズリ後、周縁ナデ		
13	2T	土師器	有台坏	底部100% (高台部)	—	（2.50）	6.60	78.46	にぶい黄橙	ロクロ成形 底部：回転ヘラケズリ後、ナデ		
14	10T	灰釉陶器	有台碗	底部35% (高台部)	—	（1.70）	6.80	28.40	灰白	ロクロ成形 底部：回転ヘラケズリ後、未調整		
15	2T	土師器 (文字資料)	坏	胴部破片	—	—	—	5.89	明黄褐	ロクロ成形 外面：体部に墨書「口万」	墨書	
16	5T	土師器 (文字資料)	坏	底部60%	（12.50）	（4.30）	6.00	75.21	外面：黄褐 内面：黒	ロクロ成形 外面：体部下端手持ちヘラケズリ 内面：ヘラミガキ後、黒色処理後にヘラ書き「キ」 底部：回転ヘラケズリ	ヘラ書き	
17	2T	土師器	甕	口縁部15%	（27.60）	（8.55）	—	100.84	明褐	外面：体部縦方向にヘラケズリ 内面：体部横方向にヘラケズリ		
18	1T	土師器	甕	底部50%	—	（3.10）	5.40	55.74	黒褐	外面：体部下端ヘラケズリ 内面：体部下端手持ちヘラケズリ 底部：一方向手持ちヘラケズリ		
19	8T	須恵器	甕	胴部破片	—	（9.70）	—	139.48	褐灰	ロクロ成形 外面：縦方向に平行線タタキ痕 内面：ヘラナデ		
20	7T	須恵器	広口壺	頸部破片	—	—	—	33.84	灰	外面：ヘラナデ、一部に自然釉 内面：上部に自然釉		
21	8T	土師器	甌	下半部破片	—	（9.30）	—	86.52	明黄褐	内・外面ともに、ヘラケズリ	置きカマドの掛け口の可能性あり	
22	8T	土師器	不明	縁部破片	—	—	—	61.73	黄橙	内・外面ともに、ヘラナデ	置きカマドの底部か？	
遺物番号	トレンチ 番号	種別	名称	遺存率	重量（g）	凹部の特徴			凸部の特徴		色調	備考
23	1T	瓦	平瓦	破片	124.92	縦方向にヘラケズリ後、端部横方向のケズリ			縦方向のヘラケズリ		明褐	
24	8T	瓦	平瓦	破片	191.25	当て布目痕			一部縦方向の縄タタキ		黄褐	
25	8T	瓦	平瓦	破片	291.49	当て布目痕			縦方向の縄タタキや切り込み痕、布目痕		暗灰黄	桶巻作りか？
26	10T	瓦	平瓦	破片	132.94	当て布目痕			斜方向の縄タタキ		明黄褐	
27	8T	瓦	平瓦	破片	35.16	当て布目痕			縦方向のヘラケズリ		明褐	
28	8T	瓦	平瓦	破片	70.58	工具によるナデ			縦方向の縄タタキ		表面：黄褐 裏面：黒褐	
遺物番号	トレンチ 番号	種別	名称	遺存率	寸法（cm）		重量（g）	色調	備考			
29	8T	石製品	管玉	完形	長：3.80 径：0.95 孔径：0.30		5.64	暗緑灰	碧玉製			
30	8T	石製品	不明	破片	長軸：4.10 短軸：3.10 厚：0.30		5.87	青黒	内・外面ともにキズ 縁部：斜方向に成形 粘板岩製の石板か？			

写真図版



1. 調査前全景 (北東→)



2. 1 T (西→)



3. 2 T (東→)



4. 5 T (東→)



5. 8 T (西→)



6. 8 T 南壁セクション (北西→)



7. 10 T (東→)



8. 11 T (東→)



報告書抄録

ふりがな	れいわにねんど そでがうらしなしいせきはつくつちょうさほうこくしよ							
書名	令和2年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書							
編著者名	鎌田望里							
編集機関	袖ヶ浦市教育委員会							
所在地	〒299-0292 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1番地1 TEL 0438-62-2111							
発行年月日	2021年3月26日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
てらのだい 寺野台遺跡 第10次調査	ちばけんそでがうらし 千葉県袖ヶ浦市 かわはらいあざてらち 川原井字寺地629番 地2の4の一部他	12229	SG098	35° 24' 43"	140° 04' 27"	20201109 ～ 20201202	173／ 1,610	確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
寺野台遺跡	包蔵地 集落跡	縄文時代 奈良・平安時代	奈良・平安時代竪穴住居9軒・土坑24基・溝状遺構2条		奈良・平安時代土師器・須恵器	第9次調査で検出された奈良・平安時代の溝状遺構の延伸が確認された。		
要約	調査区中央部から奈良・平安時代の竪穴住居が重複して検出された。遺物は土師器の坏や甕が中心となる。							

2021年3月19日 印刷

2021年3月26日 発行

令和2年度 千葉県 袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

寺野台遺跡第10次調査

発行 袖ヶ浦市教育委員会

千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1番地1

電話 0438-62-2111

印刷 ワタナベメディアプロダクツ株式会社

千葉県木更津市潮見4丁目14番4号

電話 0438-36-5361

